

専門分野

【地域・在宅看護論の考え方】

看護師が行なう看護の対象は、療養者を含めた地域で生活する人々であるにとらえ、療養の場の拡大により看護を提供する場も拡大している。地域・在宅看護論の対象は、発達段階や健康水準が多岐にわたり、生活水準や価値観も多様であり、疾病や障害の予防活動や生活支援活動を含んだ地域での多領域、広範囲にわたって看護が提供されることが必要である。これらのことから、地域で生活している対象を尊重した上で、対象の状態や生活状況を的確にアセスメントし、多職種と連携調整ができ、地域の多様な生活の場で活躍できる看護師の養成が求められている。

以上のことを踏まえ、「地域・在宅看護概論」では、在宅看護が必要とされる背景と基本理念を学び、地域で生活する人々とその家族を理解する内容とする。講義を通して、個人・家族の多様性(文化・慣習・健康観・価値観・生きる力)と家族看護の視点の必要性を学ぶ。「地域・在宅看護対象論」では、地域で生活している対象と地域における様々な生活の場の理解を大きな目的とし、地域の特性を理解すると内容した。講義を通して、自宅以外の様々な生活の場の特徴や機能を理解し、更に施設見学や利用者との関わりを通して学びを深める内容とする。また、地域調査(フィールドワーク)を通して、学校・実習先病院周辺地域の特性と地域でどのような自助・互助・共助・公助が行なわれているかを調査し共有することで地域の理解を深める内容とする。「地域・在宅看護援助論Ⅰ」では、地域の中で在宅療養者が生活を送り続けるため、個人のセルフケア能力および家族のケア能力を高める看護援助や根拠法も含めた訪問看護の実際を学ぶ内容とする。また、医療安全の基本的な考え方を踏まえ、在宅で実際に行われる基本的な医療処置や感染防止対策などの基礎的な技術を学ぶ内容とする。「地域・在宅看護援助論Ⅱ」では、地域包括ケアシステムの理解を大きな目的とし、個人・家族の生活に必要とされる地域のケア資源や地域での生活を支える地域包括ケアシステムの必要性を学ぶ内容とする。「地域・在宅看護援助論Ⅲ」では、これまでに学習したことを踏まえ、在宅療養者への看護の実際の講義を通して、状態別の対象に対する医療・看護や様々な地域資源を活用しながら療養している対象の生活を学ぶ内容とする。また、地域で活躍している保健師の講義を通して、訪問看護師と行政看護師の支援の違いについても学ぶ機会とする。「地域・在宅看護援助論Ⅳ」では、事例を用いた看護展開を通して、個人・家族の生活を把握し、健康状態とその関連をアセスメントしたことから看護実践に向けた方法を考える内容とする。

【目的】

地域で生活している人々やその家族、地域で提供する看護を理解し、地域における様々な場での看護の基礎や多職種と協働する中での看護の役割を学ぶ。

【目標】

1. 個人・家族の多様性と家族看護の視点を学び、地域で生活する人々とその家族を理解できる
2. 自宅以外の様々な生活の場の特徴や機能を理解できる
3. 地域の理解を深めるため、地域で行われている自助・互助・共助・公助が理解できる
4. 地域の中で在宅療養者が生活を送り続けるために必要な医療処置やセルフケア能力を高める看護援助を理解できる
5. 地域で生活する人々とその家族に必要とされる地域のケア資源や生活を支える地域包括ケアシステムについて理解できる
6. 状態別支援を通して、必要な医療や看護、様々な地域資源の活用について理解できる
7. 地域で生活する対象とその家族における看護過程の展開方法を習得する

【構成及び計画】

講義

科目	単位数	時間数	学年別計画時期		
			1 年	2 年	3 年
地域・在宅看護概論	1	15	○		
地域・在宅看護対象論	1	15	○		
地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	15		○	
地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	15		○	
地域・在宅看護援助論Ⅲ	1	15			○
地域・在宅看護援助論Ⅳ	1	15			○
合計	6	90	2 (30)	2 (30)	2 (30)

専門分野

科目名	地域・在宅看護概論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 在宅看護が必要とされる背景と基本理念を理解できる 2. 地域で生活する人々とその家族を理解できる 3. 個人・家族の多様性(文化・慣習・健康観・価値観・生きる力)と家族看護の視点の必要性を理解できる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	地域・在宅看護が必要とされる背景 基本理念			講義 小テスト
2	地域の人々の生活の理解 地域・在宅看護の役割			講義 グループワーク 小テスト
3	地域・在宅看護の対象			講義 グループワーク 小テスト
4	家族の理解			講義 グループワーク 小テスト
5	在宅療養者への看護活動① 地域における生活環境を整える看護 地域の人々の健康を支える看護			講義 小テスト
6	在宅療養者への看護活動② ライフステージに応じた看護			講義 小テスト
7	在宅療養者への看護活動③ 地域での生活における危機管理 地域での生活における災害対策			講義 小テスト
8	まとめ(45 分)			
評価方法	小テストを総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院			
実務経験	本科目は保健師・看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護対象論	開講時期	単位数	時間数
		1 年次後期	1	15
担当教員	専任教員・非常勤講師			
科目目標	1. 地域における様々な生活の場を理解できる 2. 地域で生活している対象の特徴と基本的な支援を理解できる 3. 地域の特性や地域で行われている自助・互助・共助・公助が理解できる			
DP との 関 連 性	3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	地域における様々な生活の場の特徴 地域密着型介護老人福祉施設 小規模多機能ホーム グループホーム サービス付き高齢者向け住宅 ケアハウス 特別養護老人ホーム 住宅型有料老人ホーム			講義
2	施設見学(9:30～12:30)			施設見学
3	地域密着型介護老人福祉施設 小規模多機能ホーム グループホーム サービス付き高齢者向け住宅 各施設の利用者へインタビュー 各施設で活躍している多職種にインタビュー			
4	施設見学で学んだ内容について学びや気づきのまとめ			グループワーク
5	施設見学で学んだ内容について学びや気づきのまとめ グループ間での共有・発表			グループワーク
6	地域調査 十勝の地域の特性 就職先の地域の特性(小樽・函館・富良野・余市・洞爺・岩内)			グループワーク
7	地域調査について共有・発表			グループワーク
8	まとめ(45 分)			講義
評価方法	授業参加態度 20% レポート 80%を総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院			
実務経験	本科目は看護師・保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 個人のセルフケア能力および家族のケア能力を高める看護援助を理解できる 2. 訪問看護の実際を根拠法も含めて理解できる 3. 在宅で実際に行われる基本的な医療処置や感染防止対策などの基礎的な技術を習得する			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	地域での生活を支える制度と社会資源			講義
2	地域・在宅看護の実践の場 訪問看護ステーション 訪問看護の実際 訪問看護の記録			講義
3	地域・在宅看護における多職種連携			講義
4	医療処置と看護 HOT、NPPV			講義
5	医療処置と看護 HPN、褥瘡管理、			講義
6	医療処置と看護 排泄管理(膀胱留置カテーテル・浣腸・摘便)			講義
7	医療処置と看護 感染管理、薬物管理、ペインコントロール			講義
8	筆記試験(45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ	開講時期	単位数	時間数
		2 年次後期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	個人・家族の生活に必要とされる地域のケア資源や地域での生活を支える地域ケアシステムの必要性を理解できる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	地域ケアシステムの目的と意義 地域包括ケアシステムの構成要素 4つの助(自助・互助・共助・公助)			講義
2	地域包括ケアシステムでの看護職の役割、活躍する多様な場			講義
3	地域包括ケアシステムの実際 ケースマネジメント/ケアマネジメント 地域ケア会議			講義
4	十勝の地域包括ケアシステムの実際			講義
5	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携			講義
6	在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源			講義
7	高齢者施策 高齢者虐待防止法			講義
8	筆記試験(45 分)			
評価方法	筆記試験 100 点			
教科書	地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は保健師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ	開講時期	単位数	時間数
		3 年次前期	1	15
担当教員	非常勤講師			
科目目標	1. 状態別に応じた療養者や家族への医療や看護を理解できる 2. 地域資源を活用しながら生活している療養者や家族を理解できる 3. 訪問看護師と行政看護師の支援の違いについて理解できる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	在宅療養者への状態別支援① 認知症をもつ療養者・家族への支援			講義
2	在宅療養者への状態別支援② ALS をもつ療養者・家族への支援			講義
3	在宅療養者への状態別支援③ 精神疾患をもつ療養者・家族への支援			講義
4	在宅療養者への状態別支援④ 呼吸器疾患をもつ療養者・家族への支援			講義
5	在宅療養者への状態別支援⑤ ターミナル期の療養者・家族への支援			講義
6	難病をもつ療養者・家族への支援の実際			講義
7	訪問看護師と行政看護師の支援の違い			講義
8	筆記試験（45 分）			
評価方法	試験 100 点			
教科書	地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			

専門分野

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅳ	開講時期	単位数	時間数
		3 年次前期	1	15
担当教員	専任教員			
科目目標	1. 事例を用いた看護展開を通して、個人・家族の生活を把握し、健康状態とその関連をアセスメントできる 2. アセスメントしたことから看護実践に向けた方法を考えることができる			
DP との 関 連 性	1. 豊かな感性を身につけ、人の可能性を信じ、自己も他者も大切にできる 3. 医療従事者としての倫理観に基づき、生命と個人の尊厳を擁護できる 4. 安全かつ安楽な看護を実践するために、臨床判断に必要な知識・技術・態度が身についている 5. その人らしい生活を支えるために、対象の持てる力を活かした援助を考える力が身についている 6. 医療チームの一員として多職種との連携・協働ができる 7. 変化する時代や地域社会のニーズに対応できるよう、多様な人々と連携・協働ができる 8. 看護に対する探究心をもち、自ら学ぶ姿勢を持ち続けることができる			
回数	学習内容			授業方法
1	地域・在宅看護過程展開の基本			講義
2	地域・在宅看護過程の展開方法			講義
3	事例を用いたグループワーク・演習①			グループワーク 演習
4	事例を用いたグループワーク・演習②			グループワーク 演習
5	事例を用いたグループワーク・演習③			グループワーク 演習
6	事例を用いたグループワーク・演習④			グループワーク 演習
7	グループ発表・共有 (入浴・シャワー浴の介助演習も含む)			グループワーク 演習
8	筆記試験 (45 分)			
評価方法	演習の参加態度 20% 筆記試験 80%を総合して評価する			
教科書	地域・在宅看護の実践 医学書院			
実務経験	本科目は看護師として実務経験のある教員による授業である			